

駒澤通信

苫小牧駒澤大学
広報委員会

〒059-1292

苫小牧市錦岡521-293

Tel 0144-61-3111(代)

Fax 0144-61-3333

http://www.t-komazawa.ac.jp

題字 大久保 治男

学長 近藤 良一



苫小牧駒澤大学三期生の皆さん、卒業おめでとうござい
ます。
皆さんに、心からお祝いを
申しあげます。
皆さんが歩み始めるこれか
らの日本と世界は、激動の厳
しい時代を迎えようとしてい
ます。社会人として皆さんの
前途には、多くの壁があるか
もしれません。しかし、大学

「随所に主となれ」
卒業おめでとう

生活の中で学び培った力を糧
とすることで、乗り越えてい
くことができることと信じて
います。もしも壁に遭遇して
十回転んだら、十回起き上が
る力をもっているという自らを励
まし続けてください。きっと
自分の実力を発揮して活躍が
でき、まわりの人から信頼さ
れ尊敬される人となること
でしょう。
皆さんへのはなむけの言葉
として、「随所に主となれば、
立つところ皆真なり」を贈り
たいと思います。この言葉
は、禅の心を表すものとし
て、臨済禅師が『臨済録』に
書かれたものです。わかりや
すく言い換えれば、「その人
がどこにあっても、主体性を

貫くことによって、どこでも
拠って立つているところが真
実である」「どこにいても、
全力で努力することこそこの
主人公として活躍できる」と
いうものです。
どこにいても、いつも自ら
が主人公である尊厳を自覚し
て、その場その場の真実を見
いだして、自分に自信を持っ
てさまざまな困難を乗り越え
ていってください。そして、
そのような生き方こそ、本学
の建学の精神である「行学一
如」を体得した生き方なので
す。
皆さんが健康で、今後ます
ます活躍されることを心から
祈念し、お祝いの言葉といた
します。

四年間の留学経験を通して

国際文化学科四年

Eay Thunder Win (ウィン)



この度学長賞が授与されると
聞いたとき、本当に私でいいの
かと思いましたが、四年間の努
力が認められたと思うとうれし
いです。こうして無事に卒業で
きるのも、私を支え、教えてく
れた先生方、大学職員の方々そ
して苫小牧の市民の皆様のおか
げです。
私は国の事情で一度留学を中
断しなければなりませんでした
し、日本に留学できるようにな
るまでに長い月日がかかりまし
た。もう一度勉強したいと決心
したにもかかわらず、異なる教
育制度、漢字が書けないこと、
同級生との年齢差による価値観
の違いなどで落ち込み、途中で

勉学を諦めようと思ったことも
ありました。そんな私を支えて
くれた年下の友人や知人にも本
当に感謝しています。逆に私の
方が若い彼らから学んだことが
多かったかもしれません。
入学前の私と卒業目前の私は
全然違うと自分自身でもよくわ
かります。総合的に言えば、こ
こで数多くの科目を学び幅広く
身につけた基礎知識や経験が私
を大きく変えたと感じています。
前よりも気楽に人々と交流し、
自分の意見や感想を表現できる
ようになりました。自分が履修
した科目を理解し、きちんとク
リアできたという確信が持てれ
ば、自信がついてくると思いま
す。
私は四月から大学院に進学し
ますが、苫小牧で受けてきた
様々な援助や精神面からの支え
があったからこそ実現できたの
です。これをきっかけに自分も
自分ができきることを必要とし
ている人々にしてあげられるよう
に頑張りたいと思います。

ライフワークと向き合って

国際文化学科 四年

島田 信子



苫小牧市民の強い要望で開学
されたこの大学で、息子よりも
若い仲間を支えられ人生二度目
の学生生活が終わろうとしてい
ます。今は「達成感」と「感謝」
の気持ちで一杯です。
先進的な素晴らしい教育環境
と熱意溢れる教授陣に恵まれた
学びの日々は、わたくしの尽き
ない知的好奇心を、十分に満足
させるものでした。専門科目と
して学んだ日本文化論・比較文
化論・世界各国の文化、そして
坐禅や仏教学など、どの科目も
初めてのもののばかりで興味深く
受講しました。これによって

「日本」を再発見し、視野が国の
内外に向けられるようになった
のは大きな成果だったと思いま
す。その小さな実践の一つが
「日本語教師ボランティアサーク
ル」の活動であり、多くの留学
生との交流でした。学内国際交
流と言う大学の特色でもあるこ
の活動の経験を、今後何処か
で役立たせたいものです。
次に、この大学で学んだわた
くしにとって最高のものとなっ
たのは、自分のライフワークの
テーマとの出会いです。これは
篠原ゼミで卒業論文のテーマに
もなりました。
わたくしは、国立ハンセン病
療養所に入所中の北海道出身者
を支援するボランティア活動を
しています。その方たちから
聞き取った差別・偏見の歴史を、
道民の一人として後世に書き残
す事を卒業後も続け、近い将来
には一冊の本にしたいと考えて
います。
最後にご指導と温かい励まし
を頂きました学内外の多くの皆
様に心から感謝申し上げます。

平成十五年度 卒業生表彰者

*曹洞宗管長賞

国際文化学科

(エイサンダーウイン)
EAY THUNDER WIN

*学長賞

国際文化学科

(エイサンダーウイン)
EAY THUNDER WIN

国際文化学科

島田信子

国際文化学科

(Zhang Kexin)
張科鑫

国際文化学科

(Qi Ying)
祁穎

*学長留学生特別賞

国際文化学科

(Xu Minglan)
徐明蓮

*学長奨励賞

ボランティアサークル ひまわりの会

国際文化学科

加藤洋一

国際文化学科

阿部成紘

剣道部

アイスホッケー部

就職支援に関する 大学の新たな取り組み

就職課

就職課では、これまで学生の目的達成のために、さまざまなプログラムを用意して就職支援を行ってまいりました。

その結果、一月末現在、学部卒業生の就職率は七九・六％と比較的良好な数字を残せてはおりますが、一方で早くから就職活動に取り組む意欲的な学生が少なく、卒業が目前に迫っているのに一度も採用試験を受けていない就職意識の希薄な学生や、就職も進学もしない学生が急増するなど、新たな対応策も求められているようです。



謙虚に、前向きに
教授 室本弘道

ご卒業おめでとう。ご在学中にも激動を続ける国際社会及びその変動にモロに影響されるわが国にあって、多くのことを感じ取りながらの大学生活であつたかも知れません。そしてこれからはその激動の世界の一員として、生活し、活躍されることでしょう。

「激動の世界」という言葉は、私が生まれたときから、いつもそうでしたし、死ぬまでそうであろうと確信しています。世界は永遠の平和にもならず、かといって戦争や悲劇ばかりでもありません。その繰り返しが永遠に続くの

就職内定者 活動体験記

悔いの残らない活動を
国際文化学科 四年 高橋憲幸



一内定先一
苦小牧市役所

私は就職活動の結果、第一志望であつた地元の苦小牧市役所から唯一内定を頂きました。しかし、市役所のみを受験した結果ではありません。民間企業・官公庁を十社以上挑戦した結果です。就職活動を進める中で最も大切だと思つたことは、早い段階での就職意識の確立と進路（業種・企業）の決定を行い、準備を開始するという事です。しっかりとした準備がなければ、就職活動はただ苦しいものにすぎません。準備は大学入学と同時に始めることが最善ですが、二年生の方は少しでも自分の将来につ

いて考える機会を、三年生の方は目標を持って行動を開始することです。

私の場合は一年生の頃にはすでに進路を決め、その準備として大学の行政に関する科目（地方自治法等）を二年生から受講する一方で、学外でも市民や行政の人が集まつて街づくりについて話し合う会議に参加したり選挙開票事務のアルバイトに行くなど、行政や公務員という職業を理解するために行動することも心掛けました。三年生からは大学の公務員講座を受講し、夏・冬休み返上で試験対策に励みました。

市役所の試験は二〇〇三年十月中旬に一次試験がありましたが、残念ながら他の企業・官公庁からは一つも内定をもらえないまま試験をむかえてしまった上、過去最高の高倍率の狭き門となつたのです。就職活動では「なぜ自分のときだけ：」「ついでにない：」と落ち込むこともありましたが、決して諦めてはいけ

ません。その結果、一次試験合格の通知が届き、面接ではこれまでの経験や公務員という職に対する熱意を思いっきり面接官に訴えることができました。

就職は人生の通過点でしかなく、その通過点は決して楽ではありませんが、しっかりと目標・夢、それを達成させる努力と自信があれば、必ず道は開けるでしょう。人生は一度しかありません。だから最高の人生となるよう悔いの残らぬよう精一杯就職活動に取り組んで、自分を大きく試してみたいです。



一内定先一
月星海運株式会社

国際社会での活躍を目指して

国際文化学科 四年 岸 穎

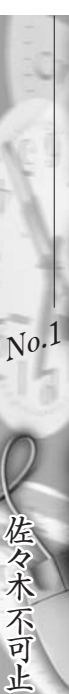
父が、日本と貿易関係である国際輸送を代理する仕事に従事していたので、その影響

を受けて四年前、私は親近感を抱いていた日本に留学しました。

留学中、苦小牧駒澤大学では、日本語、さらに英語と言葉を学ぶことによって、それぞれの国の文化や生活習慣などに触れることもでき、真の国際人を目指して、視野を広げられた気がします。また、日本経済や比較経済や国際経営に關してのテーマに大きな関心を持っています。

三年生の夏休みに、市内の菱中海陸輸送株式会社で企業研修を体験し、通関や貿易などに關しての知識も少しわかるようになりました。その経験によって、私は更に日本の先進的な物流管理技術に驚きました。それに対して、現在の中国は今まさにこの新しい物流経営管理を研究し始めたばかりの状態です。それゆえ、卒業後日本の会社にて物流システムを中心に経営管理を学び、自らの体験を中国に持ち帰ったときに活用できるような、日本で働くのが私の目標

コンピュータと過ごした半世紀



No.1
佐々木 不可止

私が進学した東京大学理学部物理学科では、当時四年のときに各研究室に所属するシステムを採っていて、私は物性理論の小谷正雄教授の研究室を選択した。小谷先生は、分子などの性質を理論的に求めるための基礎的な理論

とそれに基づいた実際の計算を酸素分子について行われ、量子化学の草分けとして世界をリードされた方である。私が所属したときには酸素分子の計算は既に終了していたが、この研究では女高師（現御茶ノ水女子大学）の学生を何十人も動員して手回し計算機が使用されたという。

もともと数学が好きで選んだ研究分野ではあつたが、小谷研究室のすぐそばにデジタル計算機を主要テーマとする高橋秀俊教授の研究室があつた。中学一年の頃からラジオ造りに夢中であつた私にとって、文字通り紙と



一九六〇年代はじめ、先生が北大に兼任まもなくから二列目 左端が先生。

鉛筆だけの小谷研究室と異なり、いろいろな電気・電子部品がうず高く積み上げられた高橋研究室は、とても魅力があつて入り浸るようになり、何時しかそこで学生実験のための電子回路の組み立てなども手伝つたりしていた。当時、高橋研究室には大学院学生として非常にユニークな論理素子「パラメトロン」を発明された後藤英一氏が居られた。手元の資料によれば、パラメトロンの着想は一九五四年、私が大学二年の頃に得られたものである。大学四年のとき、高橋教授の示唆で五月祭の出し物としてそのパラメトロン素子三〇〇個を使ってジャンケン機械を設計・製作したこともあった。現在の素子の論理が論理和・論理積を基本とするのに対し、パラメトロンは多数決論理によるので厳密な比較はできないが、およそ三〇〇ゲートの論理と比べてよい。もとより高度の作戦を教え込むことは不可能だが、簡単な予測をするハードウェアを設計して、五月祭の見物客を相手に相当の成績をあげることができた。ジャンケンを繰り返すと、人間は徐々に集中力を失うが機械は疲れ知らずなので、一〇〇回も戦うと大抵勝つことができた。パラメトロン計算機の第一号機PC1は一九五八年の春に完成し、それを利用して物性計算などを行うことができた。その年の夏、後藤英一氏と同一人の大学院学生と三人で第二号機PC2の設計のために軽井沢で合宿したことも楽しい思い出である。このPC2は、東大に設置される最初の共同利用計算機となり、後には富士通から商用機としても市販された。また、当時開始された国際地球観測年事業の一環として理化学研究所の宇宙線研究室が企画した宇宙線観測装置とか、原子核研究所のバルスハイトアナライザなどに自動デジタル処理部を組み込むことがパラメトロンによって初めて可能となったので、それらの設計・製作を学生アルバイトとして私が担当した。

パラメトロンは現在全く用いられていないのでご存知の方は少ないと思うが、信頼性の高さとコストの有利さで優れた特徴を持ち、日立・富士通・日本電気などの各社が競ってパラメトロン計算機を製造したものである。また、電話事業では日本全国の自動電話回線接続網の建設に大いに貢献した。不幸にもトランジスタ、IC回路の発達で一九六〇年代後半には徐々に競争力を失いその姿を消していったが、一時は日本の大学・研究機関で広く用いられた。

このように、電子計算機がまだ極めて限られた大学、研究機関で試作されていた時期にその設計・製作にかかわり、一流の研究者と共にゼミ・作業を通じて交流したことは貴重な体験であった。しかし一九六一年、博士課程三年の夏、小谷教授と親交の深いレフディン教授が主宰するスエーデン国ウプサラ大学の量子化学研究所に所員として採用され、PC2の完成を待たないで渡欧した。以降はもっぱら計算機システムの利用者として計算機つきあうこととなった。(本学客員教授)

大会の主な成績

《バドミントン部》

●道学生バドミントン新人戦大会
(十二月九日・十三日)

男子団体戦優勝

男子シングルス

二年国際文化

比内勇樹

三位

二年国際文化

西 寛太

四位

男子ダブルス

二年国際文化

比内勇樹・西 寛太

準優勝

二年国際文化

廣瀬由礼・二年国際文化 鎌田 享組

ベスト8

《アイスホッケー部》

●北海道アイスホッケー選手権(国体予選)

(十一月二十八日・二十九日)

二回戦敗退

●日本学生氷上競技選手権大会(二月六日・七日) 二回戦敗退

《囲碁同好会》

●北海道新聞杯囲碁大会(二月十七日)

敗者復活戦一位

魏問

敗者復活戦一位

環太平洋・アイヌ文化研究所

環太平洋・アイヌ文化研究所は、三月六日(土)、苫小牧市文化交流センターを会場として、アイヌ文化シンポジウム「胆振・日高におけるアイヌ文化の地域性」を開催した。

アイヌ文化に地域的な特徴が存在することは古くから知られていた。言語的には、北海道・サハリン・千島の三グループが大きなまとまりをなし、道内各地でも、言語・口承文芸・歌舞・儀礼・衣・食・住などさまざまな面で相違がある。本学の立地する胆振・日高地域は、イオル構想の中核イオルとして白老が、地域イオルとして平取が選定されるなど、アイヌ文化の伝承においてとりわけ重要な地域である。イオル構想が現実化しつつある現在、こうしたアイヌの地域性について再確認することは、地域からのアイヌ文化伝承を構想するためにも重要な意味を持つ。

そのため本シンポジウムでは、このような地域性がどの程度明瞭に存在するのかという事実確認と、それらはどういう歴史的背景を持つのかをメインテーマとして議論された。まず、萱野志朗氏(二風谷アイヌ文化資料館副館長)から「平取の概況」について、野本正博氏(財)アイヌ民族博物館学芸員)から「白老の概況」について報告され、さらに岡田路明氏(苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所研究員)から「物質文化にみる地域性」について、秋野茂樹氏(財)アイヌ文化振興・研究推進機構)から「精神文化にみる地域性」について、それぞれ検討がなされた。その後のパネルディスカッションでは、中

文化伝承を構想するためにも重要な意味を持つ。

そのため本シンポジウムでは、このような地域性がどの程度明瞭に存在するのかという事実確認と、それらはどういう歴史的背景を持つのかをメインテーマとして議論された。まず、萱野志朗氏(二風谷アイヌ文化資料館副館長)から「平取の概況」について、野本正博氏(財)アイヌ民族博物館学芸員)から「白老の概況」について報告され、さらに岡田路明氏(苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所研究員)から「物質文化にみる地域性」について、秋野茂樹氏(財)アイヌ文化振興・研究推進機構)から「精神文化にみる地域性」について、それぞれ検討がなされた。その後のパネルディスカッションでは、中

以上のように、今回の行事では、本学が立地する胆振・日高地域のアイヌ文化を、足元から改めて見つめることを目指して、一定の成果を上げることができたように思う。

なお、研究所の機関誌『環太平洋・アイヌ文化研究』第四号が、三月末日に公刊される予定である。所員・研究員による六本の研究論文が掲載される。

(副所長 荻島栄紀)

アイヌ文化研究所は、三月六日(土)、苫小牧市文化交流センターを会場として、アイヌ文化シンポジウム「胆振・日高におけるアイヌ文化の地域性」を開催した。

アイスホッケー 日本代表中国遠征に参加して

国際ミニケーション学科 青木香奈枝



私は十二月八日から十六日までの一週間、アイスホッケーの日本代表遠征のために中国のハルビンを訪れました。ハルピンは、気温がとても低く移動時には防寒着や、マフラー、マスク等を常に身

につけていました。中国での練習は、毎日二回行われます。試合がある日は、午前中に練習を始め、午後から試合を行うという肉体的にも、とてもハードなものでした。遠征の一環で私たちは、中国のナショナルチームと三試合行いました。その結果、1-0、4-2、2-1と全

段教えてもらえないような密度の濃い内容をたくさん教わることができ、とても勉強になりました。この経験を活かし、今後のアイスホッケー活動に役立てていきたいと思っています。

吹奏楽部は、苫小牧東ロータリークラブを中心として主催された「053コンサート」及び「環境作品展」(二〇〇三年十二月二十一日)に実行委員会のメンバーとして苫小牧工業高等専門学校(学生有志と共に参加いたしました。同イベントには、およそ八〇〇人余が来場し、大きな反響を呼びました。当日は、使用済みの割り箸およそ三〇〇〇本を使ったク

クラブ活動報告

ゼロミ053コンサートに参加して

吹奏楽部

部長

国際文化学科 3年

竹村 麻未



リスマスツリー・行灯の製作をはじめ、身近な環境問題への提言、あるいは子供向けにゲームコーナーの設置や冬休み自由研究キット(酸性雨測定)の配布等を致しました。なかでもツリーは、あまりの完成度に「とても割り箸を使ったとは思えない」との高い評価を頂きました。また、今回は本学高木助教(物質工学科)の多大なるご協力も頂き、学

外の方々とも交流を深めながら、一つのイベントを作り上げ、成し遂げることができたことは、とても有意義な経験となりました。この事業への参加は、主催者も来場者も非常に重要なゴミ問題やリサイクル活動の重要性について改めて見つめなおす機会を得たと自負しております。

また、「コンサート」では、この日のために作曲された環境保全を呼びかける歌、「クリーン・ナンバー053」の初演を当部指揮者の笹村健児(国際文化四年)が指揮を担当し、苫小牧少年少女合唱団のすてきな歌声が会場一杯に響いていました。

この一年間、私たちは、部員数の減少というハンディを抱えておりましたが、釧路霧

この一年間、私たちは、部員数の減少というハンディを抱えておりましたが、釧路霧



部局だより

教務係 (61-3122)

kyomu@t-komazawa.ac.jp

◎卒業後の証明書申し込みについて

・直接来校するか、電話等での申込
手続を行ってください。申込の際
には、下記内容が必要になります。

- ① 氏名
- ② 生年月日
- ③ 本籍地
- ④ 入学年度
- ⑤ 卒業年度
- ⑥ 学科
- ⑦ 学生番号
- ⑧ 証明書の種類・部数
- ⑨ 郵送先郵便番号、住所、電話番号
・発行済み証明書受け取りは直接来
校又は郵送になります。
・証明書代支払いは郵送の場合請求
書を同封しますので切手または現
金にて本学宛に返送してくださ
い。

◎入学式

4月8日(木)
(在校生は自宅研修)

◎学生オリエンテーション

4月9日(金)・12日(月)・13日(火)

◎授業開始

4月14日(水)～

◎聴講生・科目等履修生受付

4月14日(水)～20日(火)

◎履修登録

4月21日(水)

◎聴講生・科目等履修生オリエンテーション

4月21日(水)

◎教科書販売

4月21日(水)～26日(月)

◎履修確認

4月26日(月)・27日(火)

学生係 (61-3117)

gakusei@t-komazawa.ac.jp

卒業生の皆さんへ

◎卒業アルバムの発送について

アルバム購入の申し込みをされ
た卒業生にお知らせします。卒業
アルバムの発送期日は、5月中旬以
降(予定)となっております。
期日を大幅に過ぎてもお手元に
届かない場合は、学生係までご連
絡ください。

在校生の皆さんへ

◎定期健康診断の実施

実施日及び検査内容	検査時間	対象学年
4月9日(金)	13:00～	国際文化学部4年
X線検査	14:30～	国際文化学部3年
4月12日(月)	9:30～	国際文化学部4年
内科検診・身体測定	11:00～	国際文化学部3年
X線検査	13:00～	国際文化学部2年
	14:00～	国際文化学部1年
4月13日(火)	9:30～	国際文化学部2年
内科検診・身体測定	11:00～	国際文化学部1年

- 検診当日の服装は、なるべくゆとりのある格好をし
て来て下さい。
- 女子は無地のTシャツを着て来て下さい。
- メガネ・コンタクトは必ず持参して下さい。
- 診察室では医師や看護師の指示に従い、私語は慎ん
で下さい。

◎団体活動継続届の提出

本年度の団体登録の日程は、下記
のとおりです。
継続届提出期限：5月7日(金)
※期日までに継続届を提出しない団
体は、公認取り消しとなるので注
意して下さい。

◎日本学生支援機構奨学金を希望する方へ

新入生および在校生も対象にし
た、日本学生支援機構奨学金の申し
込み説明会を下記の日時において行
います。奨学金を希望する学生は必
ず出席して下さい。
日時：4月15日(木) 午後2時～
会場：中講義室2(C105教場)

就職課 (61-3132)

shushoku@t-komazawa.ac.jp

◎公務員受験対策講座

〈基礎講座〉 2/9～3/18
(土・日曜を除く)

◎エクステンション講座

Excel & Word検定講座・初級シス
テムアドミニストレータ講座・英語検
定講座・TOEFL検定講座・COM-
PLETE TOEFL COURSE
英会話講座・旅行取扱主任者講座・
簿記検定講座・英語講座
(対象：全学年・市民)
〈申込受付〉 4/12～28
〈開 講〉 5/10～10/29

図書館・情報センター (61-3311)

tosh@t-komazawa.ac.jp

4月9日(金)から通常開館致します。
なお、春季長期貸出圖書の返却期
限は、4月16日(金)までとなっております。

返却期限は、必ず守ってください。

4月9日(金)～4月13日(火)の学生
オリエンテーションの期間に「新入
生オリエンテーション・図書館見学
ツアー」を行いますので、新入生の
皆さんは全員出席してください。

国際センター (61-3470)

kokusai@t-komazawa.ac.jp

留学生の皆さんへ

○苫小牧を1週間以上離れる場合は、必
ず国際センターに届け出てください。

同窓会からのお知らせ

卒業後、住所、勤務先などが
変わった場合はハガキ、電話、
FAX、Eメールにて同窓会事務局
までお知らせ下さい。
※最初に登録されている住所は卒
業時の保証人の住所です。

**禁 煙**
NO SMOKING
本学は開学以来、喫煙所以外
の場所では全面禁煙です。

ドイツに留学して

国際文化学科3年 大関寛子

6ヶ月の語学研修も残り1週間となりました。私にとってのこの6ヶ月は、ドイツ語の勉強以上のものを学ぶ機会となりました。まず第一に行くまでの準備、ドイツ語の勉強も大部分を一人でやらなければならなかったのも、何を優先すべきなのか等を前よりも考えられるようになりました。語学学校の中で学べたことは、ドイツ語はもちろんのことですが、多くの国の人々との接し方です。特に私は、6ヶ月を2人部屋で過ごしたので、その中でも気を使いすぎたりせず、共同生活を行えるようになりました。

ドイツに来て、初めて感じたことは、『ここは、自分がやりたいと思っていることをはっきり言えば、それを手助けしてくれる』ということです。私は週2日、地元の人と接する機会があったのですが、挑戦することをいつも認めてくれていた気がします。もちろん、ここで暮らす中で、辛いこともありました。それは、勉強であったり、生活であったり、人間関係等でした。しかし、いつも思うのは、日本にいてもドイツにいても結局同じことで悩むのだということです。海外に出て生活することは、生活環境が変わるという点で、自分に足りなくて必要なものは何なのか、また、得意なこと、好きなことは何なのかをはっきりと知ることができます。このことは、貴重なことだと思っています。



行事予定

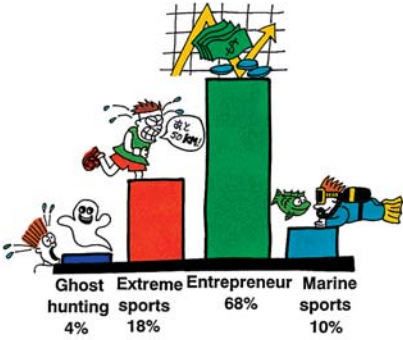
4月 8日(木)	入学式
4月15日(木)	釈尊降誕会(しゃくそんごうたんえ) ※一般には「花まつり」といい、釈尊がこの世に誕生された記念すべき聖日。
5月 6日(木)	祝祷日(しゅくとうび) ※修学の無事を祈り、充実した日々をむかえられるよう覚悟をあらたにする日。
5月23日(日)	TOEIC公開テスト
6月 3日(木)	祝祷日
7月15日(木)	盂蘭盆会(うらぼんえ) ※先祖の遺徳を偲ぶとともに生きていることを感謝する日。(過去1年間に亡くなられた学生教職員の親族の御霊をお祈りします)



-CAMPUS INTERVIEW-

Tomakomai Campus News asked fifty people what additional extra-curricular activities would they like to see offered at TKU. Here are their answers.

What extra-curricular activities or "clubs" would you like to see at Tomakomai Komazawa University?



What is your New Year's Resolution for the year 2004?



"I want to lose 10 kilograms!"
--- Takuro Yagi
Graduating senior



"I want to take the TOEIC and achieve professional qualifications."
--- Ranko Suda
3rd year student



"I want to decide on the career that I will pursue after I graduate next year."
--- Minoru Takeda
4th year student

TKU Class of 2004 Readies for Graduation

Tomakomai Komazawa University's class of 2004 will say farewell to college life as students and begin their journey as adults on Monday, March 15th. The ceremony will be held in the large auditorium and begin at 10:00am. Students and their families will be in attendance along with TKU's faculty and staff. The Tomakomai Campus News wishes success and happiness to each member of the Class of 2004!

TKU Graduate Pursues Higher Degree Overseas

Tomohiro Saeki, who graduated from Tomakomai Komazawa University in 2003, is working on a Masters degree in Native Cultures at the University of Manitoba in Manitoba, Canada. Mr. Saeki hopes to compare native cultures around the world with the Ainu culture of Japan in order to contribute to improving educational opportunities. Good luck, Mr. Saeki!

Tomakomai Komazawa University to Host TOEIC test.

TKU will host the TOEIC test on Sunday, May 23rd. Doors will open at 11:00am. All persons interested in attending should contact Professor Masaru Konno.